

概要報告

実施期日	7月31日(金)
部会名	中学校 美術部会

テーマ 『美術を通して自分を見つめる』

提案概要

小学校の図工の時間や美術に対して苦手意識をもつ生徒が多いと感じた。やってみないうちから消極的になる生徒も多い。人との違いが見えてくる年齢なので、かえって人との違いを恐れがちである。そこで個性を生かす為に、1年次では、「友達スケッチ」として、身近なクラスメートを短時間で描かせた。表面的なうまさでなく相手の良さを探すなど、のびのびと表現させることを目標とした。また、2年次は「友達スケッチ」で学んだことを生かし、「手のある自画像」を描かせた。表面的な「似ている」かどうかではなく、内面が表現できるよう「頑張った自分」や「頑張れない自分」などありのままの自分を見つめさせ、時間をかけて表現させた。

質疑概要

- ・画用紙の縦横の比率が縦方向に長過ぎ、また、サイズが窮屈に感じた。15時間扱いの題材ならもっと大きく描かせてもよいのでは。
→先輩教師のこの題材への取組を参考にやってきたが、大きい紙の方が線ものびのび描けるので、取り入れてみたい。
- ・デッサンは指導しないのか。
→行う。大作を描かせる前に行うが、今回は取り入れていない。1年次に行ってきた。
- ・どのように「どんな自分を描きたいのか」を考えさせているのか。
→「頑張った自分」「頑張れなかった自分」を文で書き出す。その内容の中からテーマを決める。
- ・文章でどのように描くテーマを考えさせているのか。また、参考作品は先輩のもの以外も見せているのか。
→具体的に、いつ、どんな場面かを考えさせる。1日の生活を考え直し、朝から寝るまでの自分のことを作文のように書き出してみる。それに線を引いてテーマを決めさせる。小学校の時に自画像を描くことが多いが、また違った今の自分を描かせるために、先輩の過去の参考作品以外にも、参考作品として年代別のピカソの作品等を見せる。
- ・完成後の鑑賞の仕方を具体的に教えてほしい。
→前年度の美術展に出した作品を鑑賞させ、よいと思うものを選ばせる。「似ている」という言葉を使わずに表現するよう指導する。班内で発表し、鑑賞内容を伝えあう。
- ・指導が15時間と長くなると、進度に個人差が出てくる。どのようにしているのか。また、色の着け方はどのように指導しているのか。
→今日は「ここからここまで」と指導する。早い生徒にも先には進ませず、じっくり見て描くなど指導している。色については、背景の色は自分の気持ちに最も合う色を考えさせている。

研究協議概要

柱1：自分を見つめる力を養うための工夫

柱2：自画像の指導方法の工夫

(ワールドカフェ方式で4グループに分かれ協議を行った。テーブルホストを班で1名ずつ決め、その人以外は、20分ごとにメンバーを交代し、議論を深めていった。最終的にテーブルホストがグループで話し合われたことについて発表し、情報を共有した。)

グループ①

- ・3年生で自画像を行う先生が多い。進路指導などにつなげる先生もいる。技法等の積み重ねが生かしやすい。
- ・指導と技法の両立が難しいと考える先生もいた。
- ・「自分を見つめる」ことが前提で自画像を考える先生もいれば、「描くこと」によって自分が見えてくる

という先生もいた。いずれにせよ「見つめること」と「描くこと」の間には相互作用があると思う。

グループ②

- ・自分を見つめる力を身につけさせる指導においては、ポイントが何かをしっかりと伝える必要がある。鑑賞の指導を通して、先輩や作家の作品から作者の思いや表したいことを生徒にじっくり考えさせて、制作につなげる手法もある。
- ・内面か技術かではなく、両方ともが大切で、それらを段階や状況に合わせて指導することが重要である。

グループ③

- ・3年間系統立てて、自分を見つめる時間が必要だと感じた。それが自己肯定感を育むことにもつながる
- ・自画像に限定しなくても、「自分を見つめること」や「自分を表現すること」は大切であり、また、作品を作る中で表れてくることだと思うし、自分を出すよう指導する必要があると思う。

グループ④

- ・自画像を取り扱う先生も多い。
- ・自分を出させるための言葉かけ、技術的な重さなど自画像の指導に、難しさを感じる先生も多い。
- ・「似顔絵」ではないので、そのときの自分を表現しきることが、人生の節目で必要だと思う。
- ・曼荼羅発想法を用いて、自分についてのキーワードを探す方法を行う先生や、色については知識を与える前に外に出て自然の見える色を自分の感じたまま作るように指導する先生もいた。

まとめ概要

- ・先生方のアイデア等がよく見えた協議だった。互いに学ぶことも多かったと思う。
- ・提案者は1学年から生徒の実態をよく捉え、苦手意識を取り除く経験や美術を楽しむ気持ちを実感させる指導に取り組んでいる。1学年で取り組ませた「友達スケッチ」は、うまく描くことができないから美術は苦手だという生徒にも「やればできる」という実感を持たせることができた。
- ・自画像などで顔を描くとき、目から描く生徒が多いことに気づき、顔全体を描かないといけないポーズをとらせるなど指導にも工夫が見られる。
- ・小学生の「似せる」ことが中心の自画像とは違い、「こころ」を正直に描くという導入は、皆の参考になるだろう。
- ・今日、感じたことは、参加する先生が皆、美術が好きであるということ。これがもっとも大事で、それがなければ子どもは指導に対し、納得しないだろう。子どもあつての授業実践・発表でよかったと思う。
- ・3年生で自画像に取り組む事が多い中、あえて2年生で扱うことの意味はあったと思う。何学年で扱うかということより、何をさせたいかが大切で、「内面を表現させたい」という点では発達段階にあっていたと思う。
- ・「似せる」か「似なくてもよいか」それは、どちらでもよい。ねらいは何なのか、それを生徒に伝えられるかがもっとも大事なことだろう。